札幌
市民防災

第７号
平成 24 年３月 31 日
札幌市民防災団体連合会
発行責任者　岡部　隆昭

平成２３年度札幌市民防災団体連合会総会開催

平成 23 年７月 16 日（土）午後２時 30 分よりＳＴＶ北二条ビルにおいて平成 23 年度札幌市民防災団体連合会定期総会が開催されました。

会員５０団体の代表者のほか来賓に危機管理対策室山崎正滋部長をはじめ多数の関係者にご参加頂いたなかで、平成 22 年度の事業・決算報告の後に、平成 23 年度の事業計画と予算案、役員改選等の審議が行われ了承されました。

総会の中で、札幌市民防災団体連合会の岡部隆昭会長から東日本大震災を踏まえて、改めて防災意識や防災訓練行動の重要性、それに伴い各団体がお互いに情報を共有して活動して行く札幌市民団体連合会の存在意義や重要性について挨拶いたしました。

///// 連合会が果たす意義について /////

札幌市民防災団体連合会　会長　岡部　隆昭

昨年３月11日、マグニチュード９という、世界観測史上最大級の東日本大震災が発生。それに伴う大津波の被害については約１年余りが過ぎた現在もその傷跡を大きく残しており、その復興に向けて多くの課題を残しております。加えて福島原発の事故も、未だ解決の目途が立たず全国的に大きな問題を残しております。振り返って平成７年１月に発生した阪神・淡路大震災で大きな教訓を学びました。

住民の協力による自主的な防災活動により多くの生命が助かった事です。淡路島の北淡町では日常の住民間のコミュニティが大きな力を発揮しました。町内の被害は全世帯の60％の家屋が倒壊し、約300人の住民がその建物の下敷きになり、生き埋めになりました。しかしこの人達は、町内会、近隣の住民によって全員が救出され、行方不明者も当日中にゼロになりました。

行方不明者を捜索するときに、隣近所の住民が、くわしい情報を救助隊員に提供しながら救出作業を行った事が早い救出につながりました。又、東日本大震災に於いても震度７にもかかわらず、死亡、行方不明者０という町もあったと新聞に報じられた記事をご記憶の方もいらっしゃる事と思います。

これらの例は日頃から自分の命は自分で守るという教訓を実施した結果と書かれております。

今回の震災で想定外という言葉を良く耳に致しましたが、自然災害には人間の想定の範囲というのは無いと思います。

常に最悪の事態を考える必要があるのではないでしょうか？

地震などの大規模な災害の発生と同時に、道・市などの関係機関は全力で活動します。しかし、火災や建物の崩壊があちこちで起こり、直ちに全てには対応できません。

道路が壊れたり、倒れた建物や樹木のため緊急車両の通行が思うように行きません。

このような理由により公の救助活動が遅れる事が予想されます。公助の到着までの３～４日ほどは、どうしても共助つまり町内会や近隣住民による助け合いが大きな力を発揮する事は過去の災害地の例を見ても明らかであります。

札幌市民防災団体連合会が今後、組織を拡大し市民組織の絆を深める大きな目標をかかげて、広範囲な地域の連携の強化が望まれる大きな理由がその点にあると考えます。

今後、安全・安心・共生のまちづくりを推進して参ります。会員の皆様のご理解とご協力お願いいたします。

札幌市自主防災セミナー 2012 開催

平成 24 年1月 30 日（月）午後3時から札幌市役所本庁舎 12 階会議室において、会員関係者 120 名の参加のもと、札幌市自主防災セミナーが開催されました。

本年度は、講師として兵庫県災害救援ボランティアの高砂春美氏をお招きして、「震災に学び、都市型災害に立ち向かう　－阪神・淡路大震災－東日本大震災」の主題のもとにご講演いただきました。

高砂氏は二つの大きな震災以前より、ボランティア活動に参加されていましたが、1995 年1月 17 日にご自身が未だ体験したことのない阪神・淡路大震災を体験したことにより、改めてボランティア活動の重要性を認識したとのお話でした。

その後、様々な地域や関係機関等で防災意識を高めて行き、高砂氏も数多くの団体に所属し日々、防災のためご尽力いただいていました。

日々活動に奔走する中、去る平成 23 年3月 11 日にあの東日本大震災が発生して、多くの被害を及ぼし高砂氏は大きな衝撃を受けました。

阪神淡路震災後様々な防災に向けての活動や準備が行われてきましたが、今回の東日本大震災では万全のはずの準備の多くが機能しませんでした。後日、様々な機関で比較検証が行われ報告されています。

大きな違いとしては、阪神淡路大震災では地震による家屋倒壊と火災が多発して多くの犠牲者が出てしまいました。その後も二次災害による被害が主な被害状況であったのに対し、東日本大震災ではモーメントマグニチュード 9.0、宮城県栗原市では最大震度 7 という観測史上にあまり例を見ない大規模な地震であったが、それにも関わらず地震そのものによる被害は比較的少なかった。しかし、その後発生した大津波により多くの犠牲者と、福島原子力発電所の事故が大きな被害を及ぼし、一年余りが過ぎた現在に至っても尚、被害の収束には至っていない状況となっており、まさに「想定外」な出来事となりました。

高砂氏は震災直後に被災地に行き、ボランティアとして自分の役割に従事して奔走していました。その中でも活動に従事しきれずに家族と共に被災地を離れる知人もいて、その方々が非難される場面も多く目にしたとのことでした。

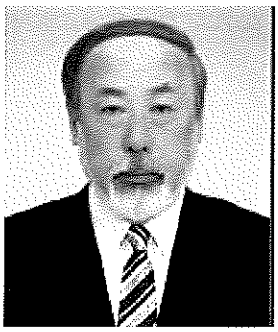
高砂氏は任務遂行か避難行動かの判断は非常に困難であり、普段からの緊急時に対する心がけが重要不可欠であるとのお話でした。

ボランティアスタッフも全国各地から多くの人が集まって来ますが、中には避難所を運営する上で障害になることもあり、避難所運営にあたってはその地域の習慣や特性、人間関係などをよく知る人が加わることが大切である

とのお話でした。

災害が発生した後、復旧に向けて活動して行く時には、やはり電気・水道・ガスなどのライフラインの寸断によるストレスが多々あり、次いで生活物資の不足状態が大きな課題とのことでした。被災地での実体験を踏まえて、日頃から個々（自助）のそして近隣（共助）の心構えが重要であるとの講話でした。

講　師　紹　介



高砂春美氏

主な活動
- 兵庫県 災害救援専門ボランティア
- 中越沖復興支援ネットワーク東日本支援センター長
- 紀州梅の里救助隊 阪神連絡事務所長
- 防災科学技術研究所 避難所運営マニュアル・訓練指導員
- 防災科学技術研究所 地域防災ネットワーク委員
- （財）岡山県生活衛生営業指導センター 災害時支援検討会会長その他、所属団体や活動は多数に及ぶ。

【プロフィール】

平成７年１月の阪神・淡路大震災発生当時、運送事業を経営する一方、魚崎町子ども会連絡協議会会長（11 団体子ども会）、自治会役員、民生児童委員、児童館理事等を兼務する地域リーダーとして活動していた。震災直後から、自身も被害を受けながら、避難所となった神戸市立魚崎小学校にかけつけ、避難所運営本部長として、避難者のケア、不足物資の入手、ボランティアとの連携に尽力し、地域復興に到る長期間の活動を常にリードした。

平成 19 年７月の中越沖地震では、紀州梅の里救助隊の支援活動で柏崎市に入り、ボランティアコーディネーターとして活動した他、復興に向けた支援を行った。また、（財）岡山県生活衛生営業指導センターの「災害時助け合いサポート事業」では、業種別の同業組合と行政機関、及び関係団体等との連携による大規模災害発生時の地域支援に対して、訓練や講演を通じた指導を行っている。

今年３月の東日本大震災では、福島第一原発事故の影響で、支援先であった南相馬市から一時撤収せざるを得ない状況等を経て、３月 25 日からは気仙沼市・東松島市等の避難所運営支援に奔走。現在は気仙沼市に長期の活動拠点を置き、仮設住宅内のコミュニティー作りや生活再建のための支援活動に当たっている。

《事務局より》

・会費について

平成２２年度総会にて、当会費を３０００円から５０００円に改める提案が成され、主席者の過半数以上の同意を得、可決され２３年度からの実施となりました。従いまして２３年度会費未納の会員の方５０００円の請求となりますので、ご周知の程宜しくお願いいたします。

尚、本年度、会費納入の程、会員の皆様宜しくお願い致します。

・札幌市民防災連合会が設立され今年７年目を迎えます。

現在、加入団体６４と、なっております。

会員皆様の地域におかれましては、日頃より防災活動に御尽力成され、安全・安心なまち作りに励んでいる事と存じ上げます。

事務局としましては、皆様の活動内容を『会報』に幅広く取り上げ、会員の皆様に情報提供を行なってまいりますので、ご協力を宜しくお願い致します。

・口座のお知らせ

北海道銀行　新札幌支店　普通１２７８８６１　口座名：札幌市民防災団体連合会